

平成 27 年 6 月発行

木童 東京ショールーム

open 月～金 10:00-18:00 土 11:00-17:00  
close 日・祝(事前予約いただければ日祝の見学も可能です)

東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティ 1F  
TEL:03-5358-5125 FAX:03-5358-5126  
URL:http://www.kodoh.co.jp

木童 神戸事務所 兵庫県神戸市北区大沢町篠 437  
TEL:078-954-0072 FAX:078-954-0257  
E-mail:muku@kodoh.co.jp

## ★北海道産地見学

木童の主力商品のひとつでもある、から松・とど松の3層パネル工場を見学するため、旭川経由で愛別町という北の町まで行って来ました。訪問の目的は品質管理と生産能力についての確認です。新しい加工機械を導入し、生産能力が今までの倍近くになったとのこと、また品質については、から松やとど松の原板を仕入れてから自社で人工乾燥をかけているのですが、その乾燥技術が確立されていました。3層パネルで重要なのは、プレスにてしっかりと接着するために原材料である無垢板の含水率を過乾燥といえるレベルまで落とし、安定するように少し戻します。より深く接着剤を浸透させるためと割れ反りを抑制させるためです。床材等でも加乾燥から並行含水率まで戻しますが、幅の広い大きな板を作るためには別の技術が必要になるのです。

3層パネルの開発は北海道の協力会社から「こんな製品は需要があるだろうか」、パプルの弾けた直後で北海道の木材業界が沈み切っていた時期に相談がありました。まずは製作できる木製品加工工場を探し愛別町の緑川さんをお願いすることになりました。あれから約15年、工場も木童からの要望に色々答えてくれ、多種多様な製品を製作してくれています。しかしながら、せっかく生産能力や品質が向上したにもかかわらず、現状は人手不足で出荷量の増加には至っていませんが、愛別町という過疎の町で何度目かの社員募集、3層パネルが地域の雇用にも貢献できているようで嬉しく思っています。



乾燥機の中の板の含水率を表示しています。



とど松三層パネル

2日目は、旭川から夕張へと移動し、広葉樹の工場へと向かいました。こちらの工場では、北海道産のなら・たも・かば・いたやかえで・あさだ等の広葉樹の床材を生産しています。こちらは年間8万m3も製材している規模の大きな工場です。かなり機械化されていますが、手作業で一つ一つ確認作業をすべき事はきちんと人間の目と手で検品されており、高いレベルの品質が担保されています。特に乾燥技術は長い歴史から確立されたノウハウと受け継いだ職人達がおり、床暖房がある時にはこの工場から出荷することが多いです。

今回は工場長と副工場長に案内して頂きました。副工場長は入社したての頃には、現場を知るために工場の繁忙期が過ぎると、大工見習いとして現場へ派遣され、自分達の製品が現場ではどのような状態で届き、どの様に施工されるのか?問題があった時にどのような原因だったのかを確認し、対策と製品向上へと力を注いでいたそうです。このような経験を約3年間積んだとのこと、施工者の気持ちに通じるという点で窓口役として大変助かっています。



乾燥機に入れたスケジュールと樹種・含水率をかきこんでいます

ちなみに一日目には勉強のために、旭川の北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場を見学して来ました。ここは日本でも有数の木の研究機関です、木童の扱うからパネル、とどパネルもここで第1号が製造されました。2012年8月発行の木童通信Vol. 40でもこの林産試験場での「捻じれないから松の柱への挑戦！」というレポートを掲載していますが、そのから松の柱はかなり開発も進み商品化へと進んでいる様でした。

しかし、元々腐食に抵抗力があるとして炭鉱の支柱や土留めの杭として使用されていたから松は柱よりも土台として適していると云えます。また、時間経過とともに捻じれようとしても上から重い構造体が積み重なるため問題ないと思います。柱材としての北海道内での消費は、価格面が折り合えばあるかと思いますが、本州などには運賃がネックになるでしょう。大手の住宅メーカーなどは柱材の面割れを嫌うため基本集成材です。地域の住宅建設会社は無垢材を使用するところもありますが、ヒノキもしくはヒバで供給も問題がないため、から松の柱の理由がないと難しいでしょう。木童でから松を関東地区で供給する場合は、外部使用のポーチ柱ぐらいです、但し価格は桧より少し安いかなと感じるぐらいですので、あえてから松を別立てで用意せず、桧で良いかとなってしまいます。

石川県や青森県では土台にヒバを、岩手県などではクリの土台を使う事も少なからずあり、また宮崎や鹿児島では杉の土台を使用します。から松も北海道のご当地土台からスタートして柱にも使えますという展開はいかがでしょうか。木童としては適材適所をご提案していますが、建てる土地によってはその地ならではのご提案が出来る様にこれからも産地の方々と協力しながら魅力ある商品開発をしたいと思えます。

## ★家づくり現場レポート① 設計：アチクラフト建築設計

約17年前にOMソーラーの家を新築されたYさん。母家の床と天井に木童創世記の頃の北前ヒバがふんだんに使われています。今回は、当時触らなかつた離れの部分にあたる一室を改装するにあたって、再び設計士さんと共に木童にご相談に来て下さいました。床と天井は石見あかまつですぐに決まったのですが、壁がなかなか決まりません。もともと木が大好きなYさんは、とにかく「巾広」の「大きな」壁板を希望されていました。最初に提案した巾は150mm、次は300mm。それでもYさんのイメージとは程遠かったようで、こちら羽目板という枠に捉われずに、大きな天板のような板(600×30mm)を提案。さすがにやりすぎたかな、と思っていたら、なんとこれが採用されることに。施工されるまでドキドキでしたが、納まってみるとなんと存在感のある立派な壁でしょうか。なによりYさんがとても喜んでくださり、その表情にとても満足感の得られた現場でした。



天井：石見あかまつ 100×10mm  
床：石見あかまつ 180×15mm



壁：厚 30mm  
巾は 300～650mm まで計 8 枚使用。



お部屋の床材が気に入られて追加になった玄関部分。



リビングは約 17 年を経た北前ヒバ。厚み 100mm あるトコのテーブルも存在感抜群。

## ★家づくり現場レポート②プレカットで"伝統工法"“通し貫”の家 設計：ライジング

木童も執筆、編集に関わったエクスナレッジ出版の「世界で一番くわしい木材」を読んでクリのデッキ材を見学しショールームに設計士さんと施主のOさんが来場されたところから湯河原の家プロジェクトがスタートしました。元々、終の棲家と考え、こだわり抜いた家づくりで、構造は国産材で貫工法、壁も木舞を組み土壁、床も厚板幅広の相生杉だが無地上小、風呂は檜風呂で温泉を引くという、うらやましい限りの仕様です。今までも貫工法の家も手掛けてきましたが、すべて熟練した棟梁による手刻みでした。今回はプレカット、初めての経験でしたが技術の進歩には驚かされます。とにかくすべての材を木童で手配となり気合を入れて手配をしました。特にクリのデッキはすばらしい眺望と相まって感無量でした。



▲室内から通し貫と木舞



▲クリのデッキ(木童の超・撥水ブラウン塗装)



▲無地上小の相生杉の床

### KODOH NEWS

企画展のご案内 [木童オペラシティショールーム内]

- 第189回企画展 6/1(月)～20(土) 光風舎「自然素材でつくる子育てを楽しむ家」6/6・13・20の土曜日は13～17:00 無料相談会+自然素材体験会を開催
- 第190回企画展 6/22(月)～27(土) NPO 法人木の家だいきの会主催 「家はライフスタイルそのもの・暮らしスタイルパネル展」 コウ設計工房/大沢宏 木の家だいきの会設計会員
- 第191回企画展 7/21(火)～25(土) NPO 法人木の家だいきの会主催 澤野建築研究所/澤野真一 木の家だいきの会設計会員
- KINOIESEVEN 企画展 6/27(月)～7/9(木)or7/13(月)～7/18(土)開催予定

※木童通信を HP よりダウンロード出来ます。バックナンバーをご希望の方はこちらをご利用下さい。